

乳児期の顔面浸出症状と夜間の掻破を経て治療を終了した幼児アトピーの経過 (3 歳 男児)

症例 ID：001-03-TK | 記録日：2015 年 8 月 31 日

1. 診断・治療前経過

生後 3 か月半頃、皮膚の乾燥と頭部のフケ様湿疹が出ました。初回受診後に一時軽減しましたが、顔を中心に再び悪化しました。

生後 5 か月頃に複数の医療機関を受診しましたが、顔の掻き傷、口周囲の浸出液、夜間の掻破が強くなりました。

2. ステロイド使用歴

項目	内容
使用内容	他院でステロイド外用薬を提案されましたが、使用の有無と詳細は不明です。
製品名	不明です。
強度	不明です。
使用期間	不明です。
中止時期	不明です。
来院前／後	来院前の処方歴はありますが、使用状況は不明です。来院後の使用はありません。

3. 治療開始後の経過（リバウンドを含む）

時期	治療開始から	経過
生後 3 か月半	発症	乾燥と頭部のフケ様湿疹が出ました。
その後	顔面悪化	顔の掻き傷と口周囲の浸出液が強くなりました。
2013 年 3 月 8 日頃	治療開始	漢方入浴と外用処置を本格的に開始しました。
治療初期	夜間症状	頭と顔を掻きむしり、夜間に目を覚ます状態が続きました。
治療半年頃	改善傾向	皮膚症状が大きく軽減しました。
治療 1 年半	治療終了	皮膚は滑らかな状態となり、治療を終了しました。
3 歳・記録時点	経過後	年に数回、皮膚が気になる際のみ漢方入浴を行っていました。

4. ピーク時期

ピークは、顔に掻き傷が多く、口周囲が浸出性となり、夜間に頭や顔を掻きむしった時期です。

5. 困りごと

- ・1 日 2 回、各 30～40 分の漢方入浴を続ける必要がありました。
- ・外出時も色のある外用薬を顔に塗る必要があり、人目が気になる場面がありました。

6. 検査値・写真・画像 ※治療前後の比較ではなく、経過中にみられた症状や検査値の記録として掲載しています。



2013年3月8日の体幹皮膚。



2013年3月8日の顔面皮膚。



2013年8月4日の顔面皮膚。

7. 経過のまとめ

治療半年頃から大きく改善し、1年半後には滑らかな皮膚となって治療を終了しました。

本ページは、患者さんの経過を時系列で整理したものです。
症状や経過には個人差があり、同様の経過や結果を保証するものではありません。